

規制改革会議 第4回健康・医療WG

医療のICT化について

平成25年5月9日
厚生労働省

医療ICT化の推進

- 効率的で質の高い医療サービスを提供するためには、情報化は必要不可欠。
- 医療関係者や患者等がメリットを実感出来る形で、医療のICT化を推進していく。

現状と今後の課題

〔現状〕

- 病床数の多い病院を中心に電子カルテやオーダーリングシステムが普及している
400床以上の病院：
電子カルテ 38.8%(2008年)→57.3%(2011年)
オーダーリングシステム 82.4%(2008年)→86.6%(2011年)
- レセプトのオンライン請求の普及により、データが活用できる基盤が構築されている
レセプトオンライン化率：病院99.9%、調剤99.9%



〔今後の課題〕

■ 医療機関等の連携

- 地域の医療機関の機能分化と連携を更に推進するため、病院・診療所・薬局等をネットワーク回線で結び、診療情報(画像、検査、処方等)を共有する取組みを普及させる

■ 保険者による情報活用

- 保険者による加入者の健康づくりや医療費適正化の取組を推進するため、保険者のデータ活用を促進する

■ 患者本人による情報活用

- 患者本人が自発的な健康増進のために情報を活用できるよう検討

必要となる取組

医療情報連携ネットワーク
の普及

保険者のデータ活用の
好事例の横展開

患者本人による健康情報の
管理・活用方策の検討

医療データの標準化の推進、医療関係者の認証基盤等

ICTを活用した効率的・効果的な医療・介護サービスの提供

医療情報連携ネットワークの普及推進

《背景と目的》

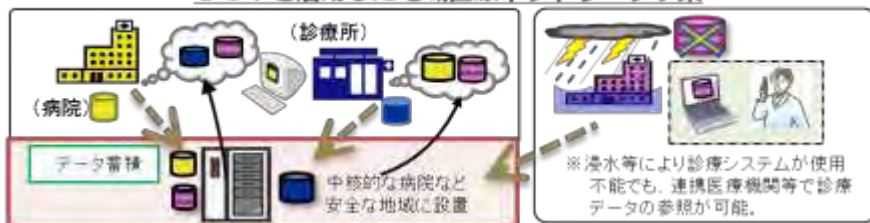
- ・ 地域医療を担う医療機関の機能分化と連携が課題となっているが、その充実や効率化のため、病院・診療所間の切れ目のない医療情報連携が重要となってきている。
- ・ これらの課題に対応するため、地域医療連携において、医療機関相互に医療情報が参照可能となるよう、診療システムの主要なデータを標準的な形式で蓄積し、情報共有するための基盤整備を行う。

《期待される効果》

- ・ 連携医療機関がそれぞれデータを外部保存するため、相互に参照が可能で、より緊密な医療情報連携が可能となる。
- ・ 重複検査や過剰な薬剤投与等の削減
- ・ 外部保存に標準的な形式を用いるため、各医療機関がどの企業のシステムを使っているとしても医療情報連携に参加でき、また、システム改修費や運用費は最小限に抑えられる。



ICTを活用した地域医療ネットワーク事業

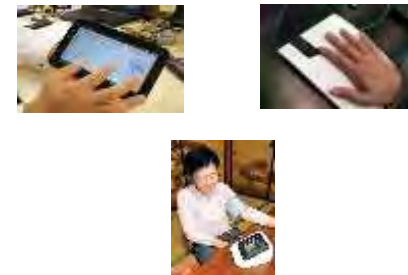


地域医療連携の普及に向けた健康情報活用基盤実証事業



在宅医療・介護間の連携システムの確立

- 今後、医療・介護間の連携が重要となることから、モバイル端末やセンサー技術等を活用し、在宅医療・介護に携わる多職種間で情報を安全かつ効率的に共有するための技術検証を実施。(モバイルヘルスの推進)

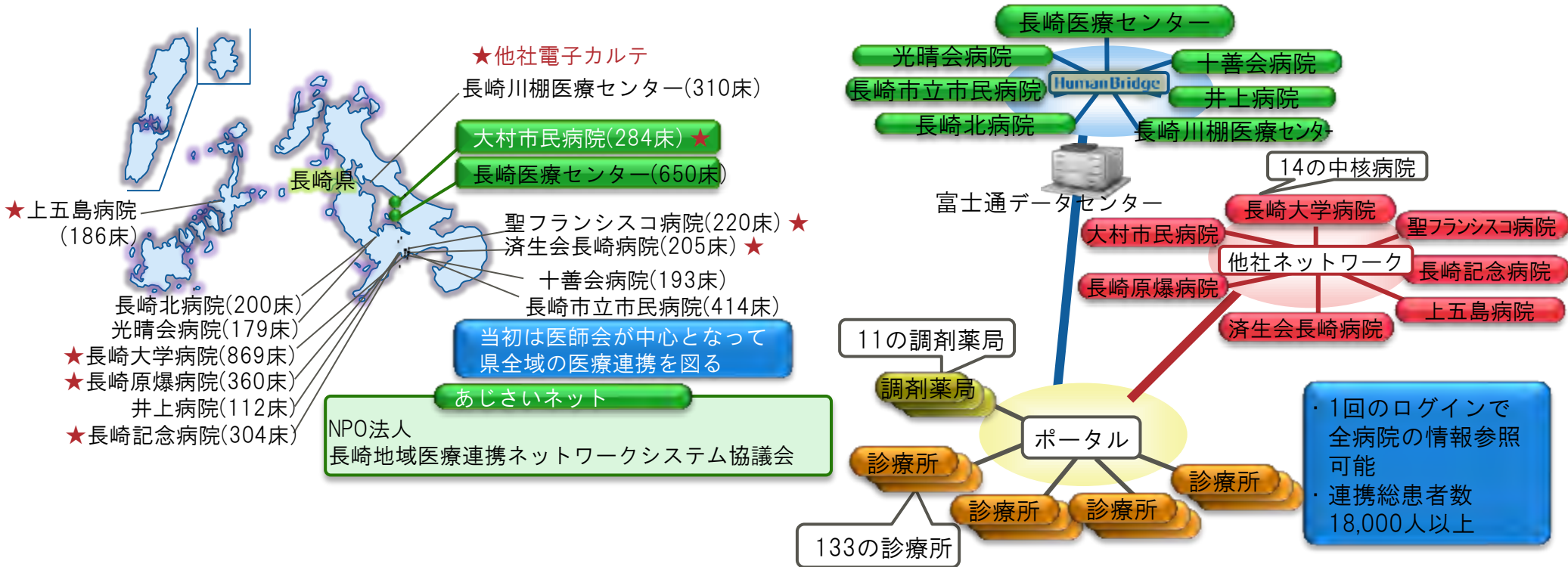


地域医療ネットワークの例(1)

あじさいネット(長崎)

目的

長崎県全域での医療の機能分担を進め地域全体での診療の質を向上



○特徴

- ・県内14の中核病院、11の調剤薬局、133の診療所というN対N連携を実現した国内最大規模の広域医療体制
- ・富士通のデータセンターを活用し、他社ネットワークとの相互連携を実現【マルチベンダーネットワークを実現】

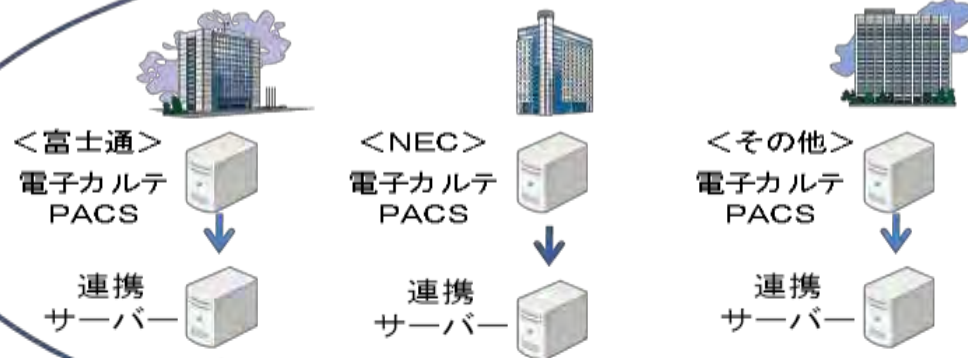
○運営主体

- ・あじさいネットでは、NPO法人を設立して運用管理。

地域医療ネットワークの例(2)

「医療ネットワーク岡山(晴れやかネット)」(岡山県)

電子カルテ・オーダーリングシステムを持つ病院

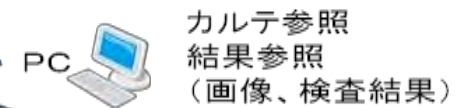


マルチベンダー方式

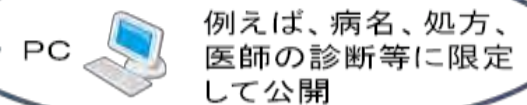
地域の病院



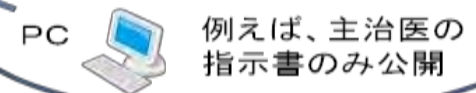
診療所



保険薬局



ケアマネ等介護サービス



地域協議会
による運用

カルテ開示

ポータルサーバ

地域医療連携サーバ

病院等を閲覧(案)
ジェネリック変更報告

主治医への報告
主治医からの指示

アクセス権限の設定

- ・患者情報は各医療機関の電子カルテ内に存在する。
 - ・ポータルサーバは、情報の在り所のみが登録され、ここを経由して情報を参照・連携する。
- **セキュリティの確保**

本県独自の取組として、保険薬局や介護サービスとの多職種連携、中小医療機関向けWEB型電子カルテ、地域連携クリティカルパスの導入を検討する。

患者さんからの同意書取得

薬局、介護など多職種連携では、どの情報を、どの範囲で、誰に公開するか、きめ細やかな公開設定機能が必須